

# ぽっぽちゃんからの 研究だより



編集・発行  
札幌市立もいわ幼稚園  
令和6年(2024年)3月

<研究主題> **質の高い幼児教育の実現に向けて**  
**～つながる ひろがる 札幌市の幼児教育～**

<中央区(中央幼稚園)、南区(もいわ幼稚園)の副主題>  
**園と家庭が一体となって子どもの育ちを支えるために**

<研究の重点>  
**遊びや生活を通じた学びや一人一人の幼児の育ちを  
家庭と一緒に考えていくために**



本園と中央区の中央幼稚園では、札幌市の研究実践園として質の高い幼児教育の充実に向け、札幌市の幼児教育を取り巻く状況や特徴、課題に対応するための実践研究を展開しております。

今年度は『子どもの育ちを支えるために園と家庭がどのように連携していけばよいのか』について研究を進めてきました。中央幼稚園では、保護者アンケートなどを活用して保護者の子育てニーズを探り、それを踏まえた上で保護者と共に幼児の育ちを支える双方向的な連携を目指してきました。もいわ幼稚園では、保育参加に取り組む中で、園は幼児にとって豊かな体験や学びにつながる環境の構成を工夫し、家庭に分かりやすい発信と幼児の育ちの共有を目指してきました。

また、研究アドバイザーの北海道大学大学院附属子ども発達臨床センター准教授 川田学先生による合同研修会を通して、近年の育児を取り巻く家庭の状況や海外の幼児教育についてのお話を伺ったり、保育の現場を見てアドバイスを頂いたりしながら研究や実践に生かしていくことができました。

これらの取組を通して得た1年間の成果と課題をまとめてみました。中央幼稚園の成果として、園で考える子どもの育ちや大人の関わり方について発信したことで、主体性や協調性などの育ち、園や家庭でできる大人の関わり方について共有することにつながりました。課題として教師の援助の在り方を考えるに当たって保護者の方の考えや思いをもっと活かしていく必要があったのでは、と考えています。

もいわ幼稚園の成果としては保育参加を通して保護者と一緒に環境構成や援助について考えたり、保育を共にすることで保護者が『遊びが学びにつながったり、力になっている』ということを感じ、育ちを理解し、共有することにつながったと考えます。課題としては保護者と一緒に行った遊びの環境を継続し、その後の幼児の育ちを伝えていくことで継続的な育ちの理解、共有を図る必要があったと考えます。

詳しい研究のまとめについては別紙資料をご覧ください。次年度も研究の重点を継続し、子どもたちの成長のために園や家庭で何ができるかを保護者や地域の方と一緒に考えていきたいと思っています。

## 中央・もいわ幼稚園合同研修会



## 遊ぼうデー(中央幼保育参加)後の懇談



## みんなで遊ぼう週間 (もいわ幼保育参加)



研究主題 質の高い幼児教育の実現に向けて～つながる ひろがる 札幌市の幼児教育

副主題 「園と家庭とが一体となって子どもの育ちを支えるために」

<研究の重点>

～遊びの楽しさや面白さ、一人一人の育ちについて家庭と一緒に考えていくために～

保育参加「みんなで遊ぼう週間」でこのように関わりました。

育ちを知るために遊びを一緒に考える

- ねらいや活動の意図をきちんと理解してもらう
- 無理がないよう、保護者一人一人に合った対応と遊びを投げかける
- 保護者の考えを遊びに生かし⇒一緒に考えたという実感につなげる
- 教師と保護者がやり取りをするということが大切**
- 遊び方や関わり方を具体的に事前に知らせることでイメージが持ちやすくなる

実践する中で

**保護者自身が一緒に楽しむことを大切に**

そのための教師の関わり

- 落ち着いた空間の用意や分かりやすい環境
- 保護者が行いやすいように幼児との関わりの橋渡しする
- 保護者の関わりやすいところを伝える

<保護者と共有した子どもたちの育ち> (懇談より)

**主体性**

自分で考える姿  
自発的に動く姿

**個性**

遊び方の違い

**安心感**

笑顔で遊び姿  
教師と一緒に遊ぶ姿

**理解力**

遊びのルール

**想像力**

製作の取り組み  
ごっこ遊び

**遊びの楽しさ**

非効率な取り組み

**集中力**

製作の取り組み  
話を聞く姿

**体力**

足の速さ  
力の強さ

**社会性**

年長児と年中児のかかわり  
励ましたりはげまされたりする姿  
褒め合う姿  
助け合いの姿

**挑戦心**

家でしないことへの取組

家庭への発信 (みんなで遊ぼう週間ニュースより)

- 褒めて自信をもたせること
- 心の安定・安心ができる
- 今しか経験できないことを体験させる
- 「必要以上に手を出さないようにしよう」と意識が必要
- 子どものアイデアや工夫をたくさん褒めてあげる
- 子どもは自分がしてもらってうれしい関わりを自分が他者にしていく
- 子どものよいところを言葉にしていくこと



<今年度浮かび上がった家庭と一緒に育ちを支えるためのポイント>

**情報の共有**

**園生活の理解**

**いろいろな試みをする**

**信頼関係の深まり**

教師と一緒にいる

**受け止める姿**

教師の子どもへのかかわりから

**何かをしたいと  
いう気持ち**

**学ぶ姿**

他の保護者の話から

**保護者の気付き**

保護者と共有した子どもの育ち(子どものいいね)

自立心から

楽しい気持ちを用意につなげる

身近な環境に主体的に関わり、考えて遊ぶ

必要感をもって行動

自分で取り組んだことに期待感を持って行動する

道徳性、規範意識の芽生えから

遊びや生活に必要な言葉を知り、自分で伝える。

自分の思いを主張したり、友達の考えを受け入れようとしたりする。

友達と折り合いをつける中でうまくいかない時や困った時には先生と一緒に解決方法を考える



豊かな感性と表現から

友達の遊びに刺激を受けたり、自分なりの発想を自由に形にしたりする。

自分ではなく、仮想の存在になりきることによってそのイメージの世界を存分に楽しむことができる。

話合いで意見が合わない時でも、みんなが納得するまで話し合おうとする。

遊びをおもしろくしようという意欲をもって友達とイメージを共有したり、役割分担をしたりする。

子どもへの働きかけ

子どもへの働きかけ

教師の関わり

このように関わりました!(おとなのいいね)

家庭の関わり

年少  
年長

- ① 子どもの「やってみたい!」という気持ちを引き出す。
- ② うまく言葉に表せない思いを察して言葉にして伝える。
- ③ ○○をしましょうではなく、子どものやりたいという思いに寄り添う。
- ④ 失敗しても大丈夫。「じゃあ、どうしようか。」と次につながる方法を子どもと一緒に考える。
- ⑤ 互いの意見を尊重し、両方の思いが実現できる方法を考える。
- ⑥ うまくいかないかもしれないけど、まずはやってみよう!と働きかける。

子どもとの関わり方を共有

- ・自分でやることと一緒にやることを大事にしている。
- ・自分から「やってみたい」と言ったことはまず本人にさせてみて、失敗したら一緒にうまくいく方法を考える。
- ・失敗してもいいからやってみて!と声をかけている。
- ・「～が終わったら～しよう。」など見通しを持たせる。
- ・選択肢を示して子どもが自分で選べるようにする。
- ・気持ちの折り合いがつかない時は、自分で切り替えるきっかけをつかめるように少し時間をおくようにしている。



園と家庭でこんな取組をしました!

保護者からの情報を得て、保護者理解を深める工夫

○保護者アンケート

- ・保護者の子育て観、家庭の生活実態、保護者の悩みなどを知ることによって保護者の傾向が分かり、保護者理解やアプローチの工夫、幼児理解などに生かすことができた。
- ・結果を発信したことで保護者もいろいろな家庭の子育てに関する状況などを知ることができた。

○ちゅうおうだいいりーの活用

- ・『まほうのかいわ』を参考にして「おとなのいいね」を考えることで、保護者が自分の関わりを振り返ったり、保護者なりの評価・考察をしたりする機会になった。
- ・継続することで遊びを通じた学びや成長の見通しに気付いたり、我が子の実態を受け止めたりしていることが分かった。

○個人懇談

- ・子どもに対する保護者の願いを聞き取り園との共有を図った。

○保護者同士の情報交換、つながる場の作り方の工夫。

○遊ぼうデーの懇談、

学級懇談会

- ・少人数の話合いにしたことで保護者同士、子育てについて気軽に話したり、いろいろな人の考えに触れたりする機会になった。

○ちゅうおうだいいりーの紹介

- ・いろいろな家庭の子どもの育ちの捉え方や『まほうのかいわ』を意識した関わり方を知ることができた。

○こどものいいね、おとなのいいねを園と家庭で共有し、保護者が自分の子育てに自信や見通しをもてるような発信の工夫

○研究だより

- ・保護者に分かりやすく、家庭で生かせるテーマを園での取組として発信したことで、保護者と園で子どもの育ちを支える大人の関わり方などの共有につながった。
- ・3年間の成長の見通しをもちやすいように3学年で相談し、実践事例の場面の共通化を図った。
- ・保護者の感想から保護者にも役立つ研究だよりになっていることが分かった。

○遊ぼうデー

- ・子どもと直接一緒に遊ぶ機会を通して、こどものいいね、おとなのいいねを意識した関わりにつながった。